

平成31年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人 墨田区文化振興財団	
施 設 名	すみだトリフォニーホール	
助 成 対 象 活 動 名	文化芸術振興による「すみだ」の地域力の向上	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	52,677	(千円)

1. 事業概要

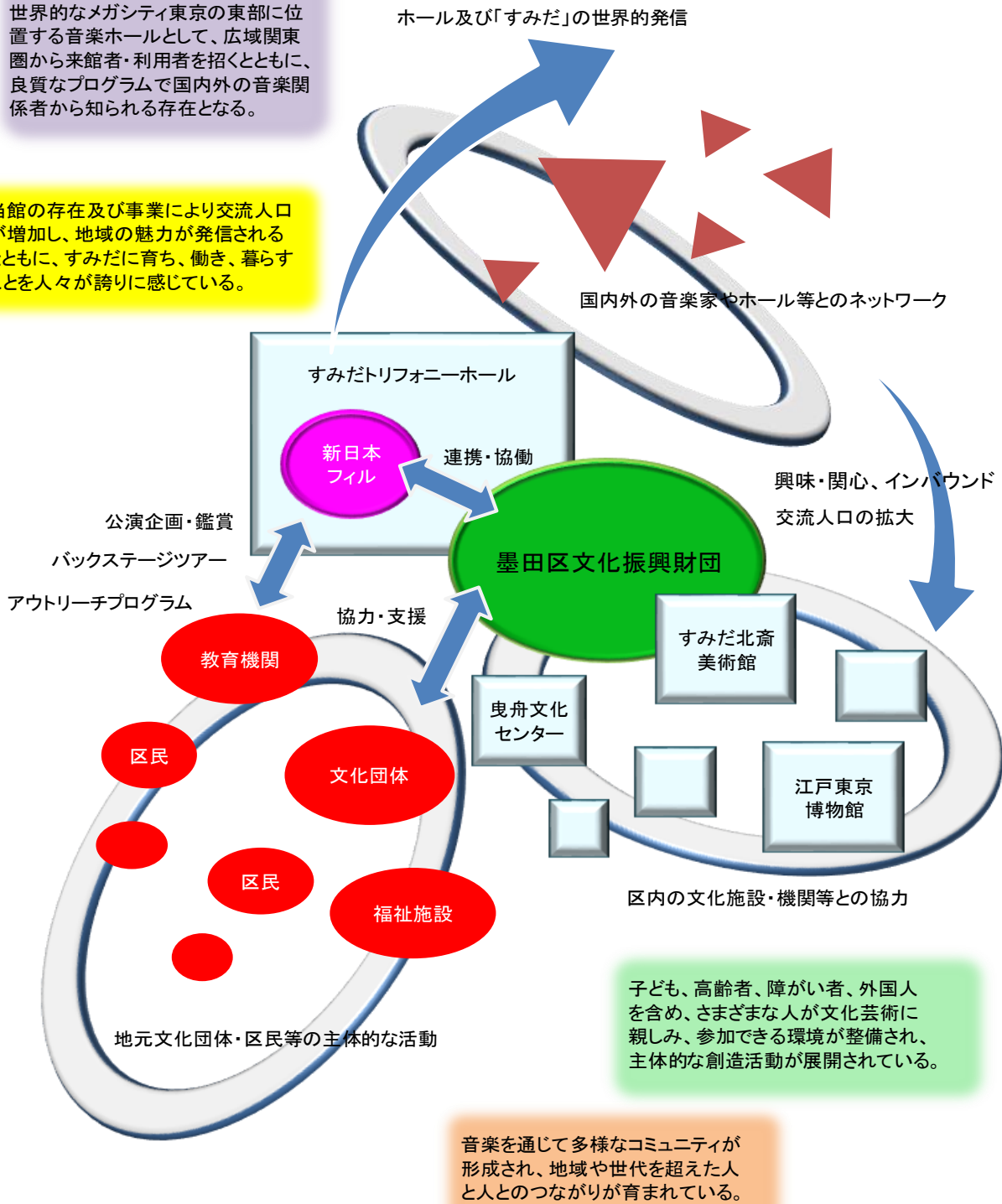
(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

(事業名)文化芸術振興による「すみだ」の地域力の向上

世界的なメガシティ東京の東部に位置する音楽ホールとして、広域関東圏から来館者・利用者を招くとともに、良質なプログラムで国内外の音楽関係者から知られる存在となる。

当館の存在及び事業により交流人口が増加し、地域の魅力が発信されるとともに、すみだに育ち、働き、暮らすことを人々が誇りに感じている。



平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	すみだ平和祈念音楽祭 2020	2020年3月10日 他	出演：上岡敏之(指揮)、坂東玉三郎(朗読)、櫻井愛子(ソプラノ)、新日本フィルハーモニー交響楽団 他	目標値	4,800
		大ホール		実績値	0
2	新日本フィルの生オケ・シネマ2019	2019年5月25日	出演：ティモシー・ブロック(指揮)、新日本フィルハーモニー交響楽団 他	目標値	2,400
		大ホール		実績値	1,456
3	トリフォニーホール・グレート・ピアニスト・シリーズ 2019/20	2019年6月4日 他	出演：ピョートル・アンデルシェフスキ、ピーター・ゼルキン、ヴィキングル・オラフソン、ジャンルカ・カシオーリ、新日本フィルハーモニー交響楽団	目標値	4,400
		大ホール		実績値	1,582
4	トリフォニーホール・グレート・オーケストラ・シリーズ 2019/20	2019年6月30日 他	出演：クリスティアン・アルミンク(指揮)、ベルギー王立リエージュ・フィルハーモニー管弦楽団、エリアフ・インバル(指揮)、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団 他	目標値	2,200
		大ホール		実績値	1,509
5	トリフォニーホール・ジュニア・オーケストラ	2019年8月1日 他	出演：松尾葉子(指揮)、トリフォニーホール・ジュニア・オーケストラ 他	目標値	5,000
		大ホール 他		実績値	4,030
6	すみだ音楽祭 2019	2019年8月18日 他	出演：墨田区内で活動する音楽団体等(34団体)	目標値	10,000
		大・小ホール		実績値	22,000
7	新日本フィル・アウトリーチ・プログラム	2019年10月20日 他	出演：新日本フィルハーモニー交響楽団楽団員 他	目標値	8,000
		墨田区立小中学校、墨田区内施設		実績値	7,000
8	下野竜也プレゼンツ！音楽の魅力発見プロジェクト第6回「オーケストラ付レクチャー・コンサート」チャイコフスキー：交響曲第6番「悲愴」	2019年8月4日	出演：下野竜也(指揮)、新日本フィルハーモニー交響楽団	目標値	1,500
		大ホール		実績値	900
9	新日本フィル・ニューイヤー・コンサート 2020 in すみだ曳舟	2020年1月4日	出演：春風亭一朝(落語)、角田鋼亮(指揮)、新日本フィルハーモニー交響楽団	目標値	500
		曳舟文化センター		実績値	450
10	トリフォニーホール 《クリスマス・オルガン・コンサート》2019	2019年12月22日	出演：アダム・タバイディ(オルガン)、中須美喜(ソプラノ)	目標値	1,200
		大ホール		実績値	1,600
11	バックステージ・ツアー&オルガン・コンサート	2019年6月6日 他	出演：棚瀬紫織(オルガン)、内田光音(オルガン)、石川優歌(オルガン)	目標値	200
		大ホール		実績値	100
12	すみだ×浜松音楽都市交流企画 「浜松国際ピアノコンクール優勝者ピアノ・リサイタル」	2019年8月5日	出演：ジャン・チャクムル	目標値	1,801
		大ホール		実績値	1,000

13	参加するホール～演ずる、創る、聴く 「ソツリマと100チェロ」	2019年8月12日 他	出演：ジョバンニ・ソツリマ(チェロ)、エンリコ・メロツツィ(チェロ)、100人のチェリスト(公募)	目標値	2,400
		大ホール		実績値	1,500
14	トリフォニーホール・セレクション 2019「ラトヴィア放送合唱団」	2019年6月2日	出演：シグヴァルズ・クラヴァ(指揮)、ラトヴィア放送合唱団 他	目標値	2,400
		大ホール		実績値	700
15	尾上菊之助×新日本フィルハーモニー交響楽団「鷺姫と白鳥の湖」	2019年8月27日	出演：尾上菊之助(舞踊・語り)、角田鋼亮(指揮)、新日本フィルハーモニー交響楽団	目標値	1,200
		大ホール		実績値	950

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p data-bbox="113 342 1479 392">事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。</p> <p data-bbox="113 392 1479 593">当ホールは、交通至便の立地、世界のアーティストから称賛される優れた音響といったハード面の特長に加え、フランチャイズ提携により新日本フィルハーモニー交響楽団の活動拠点となっていること、同楽団員が指導するジュニア・オーケストラがあること、世界で活躍する音楽家からアマチュアまで幅広い公演を支えるテクニカルスタッフが高い評価を得ていること、などのソフト面の特長を備えている。</p> <p data-bbox="113 593 1479 728">こうしたホールの利点を活かした事業計画は、自治体が設置したホールとして区民からの期待やニーズに応えつつ、幅広いエリアからの集客で地域に賑わいを創出するなどの狙いを持って、おおむね当初の予定どおりに進めることができた。</p> <p data-bbox="113 728 1479 828">平成 31 年度の主催事業でのアンケートでは、大変満足が 82% まあ満足が 17% 少し不満足が 1% まったく不満足が 0%と、極めて高い評価が得られた。</p> <p data-bbox="113 828 1479 1019">また、来場者の居住地については、墨田区 33% 周辺区 10% 周辺区以外の 23 区 17% 23 区以外の東京都 6% 千葉県 16% 神奈川県 6% 埼玉県 7% その他 5%となっている。地元区 3 割、それ以外の東京都内 3 割、近隣県 3 割という来場者の割合は、地元を中心に広く近隣から来場者を集めることができおり、地域密着型と文化芸術創造発信型の各事業がバランスよく多彩に展開できた成果と考える。</p> <p data-bbox="113 1019 1479 1211">さらに、ホールへの来場回数については、今日が初めて 32% 年に 1~3 回程度 52% 年に 4~5 回程度 7% 年に 5 回以上 5%という結果が得られた。このライトな層からヘビーな層までのリピーター率が 7 割、新規来場者が 3 割という数値は、新規開拓とファンの定着についてバランスの良い事業展開ができた証左と考えている。</p>
<p data-bbox="113 1211 1479 1261">助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p data-bbox="113 1261 1479 1462">優れた公演を行うことでホールの価値を高めること、そこを拠点に活動するオーケストラがアウトリーチ事業で地域に音楽を届けること、それを聴いた地域の人々が来観者又は公演の実施者としてホールへ足を運ぶこと、こうした循環はホールの開館以降、着実に継続してきたものであり、一貫して同じオーケストラが関わっていることは、当ホールが持つ最大の強みでもある。</p> <p data-bbox="113 1462 1479 1563">このような親しみが持てる優れたアーティストが身近にいることは、この地域で暮らす人々にとって生活に音楽が寄り添っている実感を生み出している。</p> <p data-bbox="113 1563 1479 1653">また、そうしたアーティストが活動拠点としているホールで公演を行うことは、区民やアマチュア音楽団体が主体的に音楽活動を実施するうえで、大きな付加価値となっている。</p> <p data-bbox="113 1653 1479 1888">区内の主要な音楽団体と協働して開催する「すみだ音楽祭」については、今年度はさらに音楽団体側に運営の主体を移行し、当ホールは、よりサポートに徹することができた。これは、開館以降、様々な音楽祭のあり方を各団体と模索しつつ事業を継続してきた成果とも言える。単独では当ホールで公演を実施できない出演団体も多いが、この「すみだ音楽祭」を契機に運営のノウハウを蓄積しながら、単独公演を実現した団体も出現しているので、区民の主体的な文化芸術活動を支援する観点から、音楽祭を継続することの意義を見出している。</p> <p data-bbox="113 1888 1479 2069">これらは、墨田区の「暮らし続けたい、働き続けたい、訪れたい」まちづくりを推進することとも合致しており、人と人がつながり、地域の課題を積極的かつ主体的に解決していくという地域力向上の一助になっているものと考えている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

【視点1】

平成31年度の当ホールの総入場者数は215,934人（主催・共催・貸館含む）であり、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により3月に開催されるほとんどの公演が中止となる中、昨年度の実績よりも減少したものの、2月時点で見ると昨年度の実績を若干上回る入場者数であった。

また、施設の利用率を見ると、新型コロナウイルスの影響が出始めた2月までは、大ホール98%、小ホール99%、練習室1が88%、練習室2が95%、練習室3が97%と高い稼働率であり、多くの人々による主体的な音楽活動が盛んに行われていることが明らかになっている。

一方、アウトリーチ事業の総観客数は、音楽指導事業4,317人、ふれあいコンサート1,177人、コミュニティ・コンサート662人、ジュニア・オーケストラ学校コンサート250人という結果であった。これらは、各施設の利用者はもちろんのこと、周辺の地域住民も聴衆として各施設が招いているものが多数あり、音楽がコミュニティの醸成に貢献している。また、アウトリーチ事業のアンケートによると、「墨田区に移住して何より嬉しいことがこのトリフォニーホールと新日本フィルがあること」という回答もあり、地域の魅力や住民満足度を高めることにつながっているものと考えている。

また、新日本フィルのアウトリーチ事業においては、現在、プロの演奏家となった当ホールジュニア・オーケストラの卒団生がエキストラの出演者として参加したものがあつた。これまで継続してきた事業の大きなアウトカムの一つと捉えられる。さらに、2019年12月に読売新聞に掲載された記事中に、「昔は地元の常連が大半だった。今では楽団の人たちや遠方からのファン、学生なども来店してくれる。にぎやかになった。」というホール近隣の喫茶店店主の言葉もあり、地域の活性化にも一定の貢献ができているものと考えている。

【視点2】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定していた主催事業のほぼ全てが中止となるなど、2月下旬から3月にかけて、極めて大きなダメージを受けた

特に、関東大震災と東京大空襲の二度の惨禍を経験した墨田区において、音楽を通じて平和メッセージを届けるべく、毎年開催してきた「すみだ平和祈念音楽祭」が中止となったことは、大きな期待もあつたことから大変に残念な結果となった。

また、アウトリーチ事業についても、平和祈念音楽祭の一環として実施予定であつた新日本フィルと広島交響楽団との合同アンサンブルが中止となったことや、区内の全ての小中学校で実施される音楽指導事業において4校が未実施で終わるなど、地域で身近に音楽に触れる機会が失われた。

これほどの事業活動の中止又は延期は、過去に例がないものであり、事業の中止等による調整、発表方法、チケット払戻しなど、膨大な労力と時間を割かれることとなり、次年度以降の事業運営にも影響が出ている。

区民による音楽活動も同様で、3月についてはほとんどの公演等が中止となり、当月の施設利用率は、大ホールが4%、小ホールは15%まで落ち込んでいる。

しかしながら、こうした経験で蓄積されたノウハウは大きく、まだこの影響の出口は見えていないが、今後には活かすべく各部署において情報共有と反省・改善点の洗い出しを行っている。

一方で、来場者や施設利用者とのコミュニケーションが平常時より深まった面もあり、職員やホールスタッフの対応により、当ホールへの信頼を強化することができたものと考えている。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

当初計画していた公演数をコンパクトにしたことで、ほとんどの公演事業を適切に進めることができた。特に、全国からチェロ奏者を100名募集し、公演当日までに音楽を創りあげていく参加型公演「ソッリマと100チェロ」の開催においては、初めての試みの参加型公演であったため、2日間の合宿に近い練習期間を設けたものの、開催まで何度もシミュレーションを行った。結果として、チェロ奏者のソッリマの優れた指導力で、総勢129人のチェロ奏者たちが素晴らしい演奏を披露することができた。また、収支も計画当初との乖離がなく、完売とまではいかなかったが、大ホール1800席のうち約85%が入場者で埋まった。

事業費については、公演事業ごとに収支比率に差があるのが現状である。全体的には、公演ごとのターゲット属性を見極め、チケット料金を設定し、区民割引やペア券割引、チケットメンバー割引などを組み合わせて発売することで、有料入場者数の増加を図った。当ホール全体の公演事業を見ると、2月時点では平成30年度の入場者総数(214,907人)を上回る215,608人の総入場者を獲得することができたが(計画当初の予定では約23万人を想定)、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、3月末には約26万人以上の入場者計画を見込んでいたにもかかわらず、収支、入場者数等は落ち込み、計画どおりにはいかない結果となった。

各公演事業の広報計画も、OWNメディアを効率よく利用するコミュニケーション重視型戦略へと改善することで、広報費を適切に執行し宣伝費の大幅削減を可能とした。特に、コミュニケーションツールとしての当ホール公式HPや会員向けメルマガ、Twitter、Facebookなどの活用について、年度当初は、メディア特性をいかした活用ができなかったため集客が安定していなかった。夏以降は、メディア特性に合わせたターゲットの属性を把握することができはじめ、公演情報をより効率的に活用し、効果的なプロモーションにつながるよう改善に努めた。

また、“地域の音楽文化活動を行う区内の音楽愛好家を拡大する”地域力向上の全体目的も、区民主体で催された「すみだ音楽祭2019」では、目標値10,000人を超えた約22,000人の入場者・参加者で賑わい、満席で入れない盛況な区民音楽祭として定着してきたと言えるようになった。同様に「新日本フィル・ニューイヤー・コンサート in すみだ曳舟」公演も、地域密着型の事業において音楽の裾野を拡大することを狙いとしているため、区内連携先ホールの曳舟文化センターとともに、区内観光案内所や地域のフリーペーパー等とも連携することで、広報費を抑えながらも効果的なプロモーションが可能となり、地域のお正月行事の一つとして定着しつつある。

「クリスマス・オルガン・コンサート」公演でも、近隣大手デパートの会員情報誌に、特別感のあるチケット販売プロモート連携企画(デパートのお買い物とコンサートを体験できるクリスマスプランなど)を企画掲載し、新しいチャンネルで販売していくことで、今まで当ホールに一度も来たことがない来場者が約50%を占め、新規利用者開拓に大変効果的であったとの結果が出た。

さらに、当初計画より、宣伝費やチラシ・ポスター増刷費などの印刷費を削減し、チケットは早々に完売となり、目標値1200人を超える1600人の入場者となり、計画を何度も検証しながら実行していくことと、新しい試みにも積極的に取り組むことで、より効率的に公演を継続していけることを確信した。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

すみだトリフォニーホールは、昭和 63 年に墨田区と新日本フィルハーモニー交響楽団との間で締結した我が国初のフランチャイズ提携に基づき、同楽団が活動拠点としていることが大きな特徴である。

同楽団は、世界的指揮者である小澤征爾の呼びかけにより設立され、斬新な企画と優れた演奏で音楽愛好者から高い評価を得ている。同楽団では、平成 28 年度よりドイツで 30 年以上の輝かしい活動実績を持ち、ヴッパダール市立歌劇場インテンダント兼音楽総監督等を歴任した、上岡敏之が第 4 代音楽監督に就任し、今年で 4 年目を迎え、現在、音楽的な成熟期を迎えている。

「街に密着したオーケストラでありたい」という上岡音楽監督は、世界に通じるクオリティを追求するプログラムの一方で、音楽による次世代育成に注力している。本年度 5 月には、区内小学校 2 校で上岡音楽監督自ら学校へ出向き、ピアノを弾き、音楽と人生とのかかわりの素晴らしさを伝え、児童・生徒をはじめ学校教育関係者や区文化芸術担当者らの心に響く授業を行っている。

当ホールでの新日本フィルの定期演奏会としては、「トパーズ」8 プログラム 16 公演、「ルビー」8 プログラム 16 公演を開催するほか、楽員プロデュースによる室内楽公演を 8 公演ほど行っている。また、当財団主催公演については、年 7 公演程度を開催するほか、当財団との共同主催である年 4 回の特別演奏会を実施しており、これらの公演については、上岡音楽監督と当財団音楽事業課長が月 1 回面談を行い、新日本フィル事務局との企画会議を重ね、地域に密着したプログラムや創造的な取組みを展開している。

一方、もう一つのフランチャイズ・オケであるトリフォニーホール・ジュニア・オーケストラは、松尾葉子音楽監督のもと新日本フィル楽団員をトレーナーに迎え、当ホールを活動拠点としている。現在、小学 4 年生から高校 3 年生までの約 80 名が在籍しており、新日本フィル楽団員の指導を受け、その音楽性に直に触れながら、技術力や表現力を養っている。音楽大学に進んだ卒団生は約 30%おり、プロの演奏者としてトリフォニーホールの舞台に立った者もいる。定期演奏会や区内小中学校への訪問演奏の他、区内総合運動場開場記念式典や障害者スポーツレクリエーション大会など大規模な行事で招待演奏も行うなど、地域に豊かな音楽文化を根付かせる役割を担っている。

こうした音楽活動の拠点施設となっている当ホールでは、専門技術を有する舞台技術スタッフが常駐しており、公演実施に際しては、舞台技術スタッフ、事業マネージャー、企画担当者とともに公演 1 か月前に事前打合せを実施し、情報を共有しながら当日の公演運営に臨み、事後には振り返りも行っている。いわゆる PDCA サイクルに則り、各スタッフのスキルアップを図りながら公演を展開している。

区内団体の合唱連盟と音楽団体協会とは、連携しながら、「すみだ音楽祭」を実施しており、恒例事業として定着している。本事業は、地域で活躍するアマチュア合唱団や演奏団体などが主体となって行う音楽イベントとして周知され、本年度は総計約 2.2 万人を超える来場者があり、地域での文化芸術活動の振興や聴衆の拡大に大きく寄与している。

また、文化芸術情報の提供・発信としては、当ホールの特性や最寄駅からの動線（所在地や交通機関、所要時間等）を分かりやすくデザインした「ホール紹介ポスター」を新たに作成し、ホールのコンタクトポイントとして、ホール周辺や人通りの多い駅前の複数箇所に掲示している。最寄駅である JR 錦糸町駅は、乗降客数 1 日約 30 万人を誇り、区内への転入者が最も多い新年度の時期にアピールすることを狙いとして、各公演情報ポスターと並べて掲示した。このことによる相乗効果もあり、アクセスの分かりやすさに対する来場アンケートで、大変満足 69%、まあ満足 29%、少し不満足 2%、まったく不満足 0%と、高い評価が得られた。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

フランチャイズ・オーケストラである新日本フィルを活用した主催公演では、生オケ・シネマ「チャップリン」や、指揮者の下野達也によるレクチャー付きコンサートとしての「音楽の魅力発見プロジェクト」、当ホールのシンボルでもあるパイプオルガンを活かした「オルガン・クリスマス・コンサート」など親しみやすい公演により、リピーター率7割を超え、人気企画として定着しつつある。

一方、音楽ファンや批評家からの評価が高い「トリフォニーホール・グレート・ピアニスト・シリーズ」のうち、特に、「ヴィキングル・オラフソン&新日本フィル」公演は、クラシック界のオスカーとも呼ばれる英グラモフォン・アワード2019を受賞した直後に招聘し、注目を集めた。事前事後ともに多くのマスメディアへ露出したが、Yahoo ニュースはじめ『イントキシケイト』など多数のクラシック専門誌や音楽情報サイト等で取り上げられた。また、女性向けWEBメディア『0Zmol1』（会員数340万人）でも取り上げられたことで、若年層にもアピールすることができた。来場者アンケート結果による公演満足度は100%であり、そのうち78%が大変満足と回答し、満足度が極めて高い公演となっており、当ホールの評価の向上につながった。

「ソッリマと100人のチェリストたち」公演では、世界的チェリストのジョバンニ・ソッリマ、エリンコ・メロツィを招聘し、全国から公募による10歳から80歳までのプロやアマチュアのチェロ奏者約129名が、リハーサルからソッリマとともに音楽を創り上げる体験を経て本番を迎えた。参加者には地元奏者もあり、そのネットワークを生かしてフリーペーパーに、リハーサルから本番までの様子がリアルタイムで連載された。ソッリマの唯一無二の自由な音楽表現に触発され、参加者は生き生きと音楽の喜びを表現し、熱狂的なステージとなった。この取組みは、弦楽器マガジン『サラサーテ』に特集が組まれるなど数多くのマスメディアや参加者らのSNS発信により大きな話題となり、次回公演を熱望するほどの反響があった。

墨田区は、江戸庶民の伝統文化が今もなお、豊かに息づく街であることから、伝統芸能を意欲的に取り上げた。中でも、阿竹黙阿弥や音羽屋とのつながりの深い土地柄のため、本年度は、人気実力ともに兼ね備えた歌舞伎俳優の尾上菊之助を招聘した。「尾上菊之助&新日本フィル」公演は、平成元年に坂東玉三郎がウィーン公演で大絶賛され、世界的にも人気の高い「舞踊《鷺娘》」の舞台を実現することにより、尾上菊之助による芸の真髄を披露したほか、菊之助の朗読と新日本フィル共演で音楽世界をドラマティックに表現した。35%が都外から来場しており、歌舞伎ファンだけでなく関東圏広域から幅広い多くの集客があり、来場者アンケートによる公演満足度は100%であり、そのうち84%が大変満足と回答した。事後、菊之助自身によりSNSで投稿された影響力は大変大きく（Instagram フォロワー2.4万人）、新日本フィルや当ホールが広く紹介されたことによる評価の向上につながった。また、地元邦楽関係者や区、地元企業、地元住民にとっても、あらためて地域の優れた歴史的資源に目を向ける貴重な機会にもなった。

関東大震災と東京大空襲という二度の惨禍を経験した墨田区において、毎年、特別な意味をもつ3月10日に「すみだ平和祈念音楽祭」公演を開催している。「ベートーヴェン/ゲーテの悲劇《エグモント》」で、歌舞伎俳優で人間国宝の坂東玉三郎を朗読に迎え、新日本フィル共演の音楽により平和への祈りを発信する予定であった。事前に読売新聞社江東支局（発行部数30万部）による取材が行われ、当ホールの取組みが大きく紙面に取り上げられたことにより、本公演の開催を期待する数多くの反響が寄せられたが、やむなく新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から公演中止となった。次年度以降、同公演内容の実施を検討する。

これらの主催や貸館事業において、ステークホルダーの要求や期待、地域のニーズに対し、公平・公正で戦略的な事業を実施するため、毎月1回「ホール利用調整委員会」を行っている。音楽や芸術文化に造詣の深い専門家や有識者で構成されており、高い見識をもつ委員の多角的な視点による意見を伺い、事業実施に活かしている。

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

人事管理

(1) 職員体制等

令和2年3月31日現在、音楽事業課及び総務課に従事する職員は14名であり、うち正規職員の比率は57%となっている。また、正規職員及び契約職員の平均勤続年数は、7.6年であり、組織も小規模で異動先が限定されるため、同一部署での勤務が長期化する傾向にある。これまで契約職員をはじめとする有期雇用の採用のみであったが、将来の財団運営を担う人材の確保という観点から若年層の正規職員の採用を行った。

(2) 職務能力の向上

人材育成を図ることを目的に職員の努力や成果を処遇に反映させるための「人事評価システム」を平成30年度から、また、職員が主体的に自己点検を行うための「目標管理システム」を令和元年度から実施している。

さらに、職員のスキルアップを図るために全国公立文化施設協会主催の実務研修に積極的に参加することや、専門家による講習会を独自に実施している。

2 財務管理

(1) 財務状況

当財団は、すみだトリフォニーホールの指定管理者として管理運營業を担っており、年間の指定管理料は約3億6千万円で、過去3年は、おおむね同様な額で推移している。

令和元年度の音楽等の振興事業の収支については、公益法人として前年度からの剰余金の解消を図るために収支差額マイナス約1,200万円であったが、法人全体の次期繰越収支差額は約7,400万円であり、安定的な財務運営に努めている。

(2) 安定的な収入の確保

区観光協会や宿泊施設と連携したセット券の販売、コンサートチケット半券の提示により食事料金の割引やドリンクサービスが受けられる地元商業施設とタイアップした企画を実施することにより、当ホールの利用者増につなげている。また、自治総合センターによるコミュニティ助成事業（地域の芸術環境づくり助成事業）への応募を行い、外部資金の確保に努めている。

(3) 会員制度

年会費無料で先行販売や割引等の優待特典のある「トリフォニーホール・チケット・メンバーズ」については、令和元年度末の会員数が20,196人で、対前年度比2,358人の増、率にして13.2%の増となっている。今後も当会員制度を積極的にアピールすることにより、会員増につなげている。

3 施設管理

当ホールは、開館から22年が経過し経年劣化が進行していることから、計画的な修繕が必要不可欠となっている。このため、日常的な保守点検及び定期点検等で得た修繕に係る的確な情報を区に報告し、連携して修繕に取り組んでいる。特に、今後予定される大規模修繕については、修繕に係る調査や関係機関との調整に協力している。

4 他ホールとのネットワーク

近隣の公立コンサートホール等での情報交換や、全国の公立コンサートホール6館で組織するコンサートホール企画連絡会議に参加し、事業企画、施設運営等に関する共通する課題を議論し情報の共有化を図っている。